

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	フリースクールスタートライン		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月8日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づき、子どもの特性や成長に合わせた柔軟なプログラムを提供できている点。アセスメントを重視し、本人の力を引き出す支援を行っている。	朝礼やSNS、業務日誌を活用し、スタッフ間で子どもの状況を即時共有。活動内容を固定せず、日々の気づきを支援に反映させている。	独自のアセスメントシートを導入し、より多角的な分析を行う。また、本人の強み(ストレンクス)をより伸ばせるよう支援の専門性を高める。
2	月1回の面談やSNSを通じた密な連絡により、保護者との高い信頼関係を築けている点。学校や行政とも適切に連携し、地域に根ざした運営を行っている。	定期的なモニタリングで保護者の意向を丁寧に汲み取り、計画に反映。地域スペースや公園を活用したイベントを通じ、社会との接点を作っている。	保護者同士の交流会(茶話会等)を定期開催し、横のつながりを支援する。また、外部研修の情報を積極的に提供し、家族支援の幅を広げる。
3	バリアフリー化や2重玄関、BCP(業務継続計画)の策定など、子どもの安全を最優先に考えた施設・運営管理が行われている点。	1日3回の清掃・消毒を徹底し、清潔な環境を維持。ヒヤリハットはその場で即時対応・共有し、再発防止に向けた対策を講じている。	避難訓練の回数とバリエーションを増やし、災害対応力を強化。安全計画の内容や緊急時連絡網について、改めて保護者への周知・徹底を図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援管理責任者(児発管)に情報や役割が集中しがちであり、スタッフ全員がアセスメントや計画作成の深い工程まで十分に習熟しきれていない点。	日々の直接支援や運営業務に注力しており、専門的な計画作成や多角的な分析を学ぶためのまとまった時間を確保することが難しかった。	内部研修を定期化し、全スタッフがアセスメントやモニタリングのプロセスを理解できる体制を構築する。担当制を設けるなど、役割を分散し組織力を高める。
2	現在は個別支援に注力しているため、保護者同士が悩みや情報を共有できる「横のつながり」を作る機会が不足している点。	新型コロナ等の影響や、運営開始から個別ニーズへの対応を優先させてきたため、集団での交流イベント開催が後回しになっていた。	休日や長期休暇を利用し、保護者会や茶話会を定期開催する。外部の研修会やペアレント・トレーニング等の情報提供も積極的に行い、家族支援を多層化する。
3	小中高生まで幅広い年代が利用する中で、集中できる環境整備や、作成した安全計画・マニュアルの保護者への周知がまだ十分でない点。	限られたスペース内でのゾーニング(使い分け)の難しさや、マニュアル策定・更新に注力するあまり、外部への情報発信が追いついていなかった。	パーソナルスペースの確保や年代に合わせた備品整備を段階的に進める。安全計画や連絡網、BCPの内容をSNSや書面で改めて周知し、安心・安全の見える化を図る。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 フリースクールスタートライン

公表日 2026年 4月 20日

利用児童数 17

回収数 10

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	80%	10%	0%	10%	部屋の広さ：2部屋合計（46.5㎡）。 1人あたり3.0㎡の基準をクリアしている。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	70%	20%	0%	10%	児童指導員3名・指導員1名を配置。 基準人数をみたしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	70%	10%	0%	20%	施設内バリアフリー。、玄関は2重扉で安全確保。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	80%	10%	0%	10%	1日3回の清掃と消毒。小中学生を見据えた学習スペースを確保。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	80%	0%	0%	20%	面談とモニタリングに基づき、個別支援計画を作成・共有。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	80%	0%	0%	20%	支援プログラムを基に療育を行っている。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	90%	0%	0%	10%	月1回の保護者・関連機関との面談、スタッフ会議を継続。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	90%	0%	0%	10%	・本人の意欲を引き出す支援と、家族へのサポートを両立。 ・学校・教育委員会・地域福祉との連携、スタッフ間の情報共有を強化。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	90%	0%	0%	10%	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	80%	0%	0%	20%	子どもの成長に合わせ、活動を固定化せず工夫。今後は屋外活動も増やす計画。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	30%	20%	20%	30%	地域イベントの開催頻度を向上（年1回→数回へ）させ、交流の場を広げる。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	90%	0%	0%	10%	利用者に対し、より分かりやすく丁寧な説明・情報提供を徹底する。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	80%	0%	0%	20%	モニタリング結果を反映し、保護者と合意形成を図りながら個別支援計画を作成・説明。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	60%	10%	0%	30%	外部研修等への案内や情報提供の機会を増やし、家族支援の充実を図る。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	100%	0%	0%	0%	連絡帳や面談等を通じ、子どもの体調や発達状況について保護者と密に情報共有を行う。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%	0%	0%	0%	月1回の定期面談を継続し、家庭での困りごとに対する助言・サポートに注力する。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%	全スタッフで子どもの状況を共有し、支援の統一を図る。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0%	20%	50%	30%	休日利用等も検討し、保護者会や交流の場を今後開催予定。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	90%	0%	0%	10%	相談窓口を明示し、情報を共有。本人・家族支援を徹底。
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%	0%	0%	0%	連絡帳やSNSを活用。丁寧な対話で意思疎通に努める。	

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	80%	0%	0%	20%		自己評価の結果をSNS等で発信。おたよりの作成も検討中。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	90%	0%	0%	10%		個人情報の取り扱いに細心の注意を払い、鍵付き書庫で厳重管理。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	40%	10%	0%	50%		防災・防犯・感染症マニュアルを周知し、定期的な訓練を実施。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20%	0%	0%	80%		多様な災害場面を想定した避難訓練を定期的に行う。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	70%	0%	0%	30%		子どもの安全確保のため、安全計画や緊急時連絡網を周知。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	70%	0%	0%	30%		万が一の事故や怪我の際は、迅速な対応と説明を徹底する。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%	0%	0%	0%		子どもが安心して楽しく通所できる環境づくりに努める。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	90%	10%	0%	0%		子ども・スタッフ共に楽しめる施設運営を目指す。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%	0%	0%	0%		ご満足いただける支援を提供できるよう、日々努める。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	フリースクールスタートライン				公表日	2026年 4月 20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	多目的室を療育・学習・集団活動で使い分け、十分なスペースを確保。	集中して取り組めるよう、パーソナルスペースを確保する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	基準を上回る人員（基本+児童指導員・指導員）を配置。	より質の高い療育のため、児童指導員をさらに増員予定。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	多目的室を分割。バリアフリー化され、安全な動線を確保。	児発の利用も想定し、専用の洗面台やトイレを順次整備。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	1日3回の清掃・消毒を徹底し、清潔な環境を維持。	小中生の利用に合わせ、落ち着いた学習スペースを確保。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	プレイルームを「療育」と「リラックス」で分けて活用。	自分のペースで落ち着いて過ごせる空間をさらに設ける。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	83%	17%	アセスメントや会議を密に行い、個別支援計画へ反映。	子どもが日々達成感を持てる目標を設定し、支援を強化。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	月1回の保護者面談を行い、意向を業務に反映	面談に対応できるスタッフの育成をさらに進める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	朝礼や食事を通じ、スタッフ間の意見交換を活発化。	日々の子どもの様子について、スタッフ間でさらに詳細に共有。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	（現在は外部評価未実施）	第三者評価の導入をコスト面も含めて検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	内部・外部研修へ積極的に参加し、職員の質を向上。	運営管理に関する研修にもスタッフが参加できるよう調整。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	子どもの特性に合わせた個別プログラムを作成。	月に一度の面談記録をさらに支援の現場で活用する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	ケース会議を行い、保護者のニーズを反映した計画を作成。	外部機関との月1回程度の連携を強化し、計画に反映。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	ケース会議で多角的な視点を共有し、子どもの利益を最優先。	スタッフに負担をかけず、共有しやすいチーム作りを目指す。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	朝礼やSNSで情報を即時共有。計画に沿った支援を徹底。	気づきや問題点をその日のうちに解決できる体制を強化。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	公的なツールと日々の観察を組み合わせ、多角的に評価。	施設内でのアセスメント精度向上のため、研修等に参加。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	家族支援や地域連携を含め、本人の力を引き出す支援を実施。	スタッフ間の情報共有をさらに密にし、支援の質を高める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	前日の確認と朝礼を通じ、チームで活動内容を立案。	ホワイトボードを活用し、子どもの視点でも分かりやすく掲示。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	子どもの成長に合わせて、活動内容を柔軟に工夫。	屋外活動の機会をさらに増やしていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	個々の特性に応じた個別・集団活動のプログラムを作成。	本人の強み（ストレンクス）を伸ばす支援を強化。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	83%	17%	毎朝の打ち合わせで、一日の流れと役割分担を徹底。	より手厚い支援のため、スタッフの増員に努める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	67%	33%	終礼で活動を振り返り、気づきをスタッフ間で共有。	欠勤スタッフへもSNS等を活用して情報を確実に共有。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	連絡帳や業務日誌を記録し、支援の検証・改善に活用。	記録の共有漏れを防ぎ、チーム全体の支援力を向上。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的なモニタリング会議を行い、支援計画を適宜見直し。	児発管だけでなく、面談を行えるスタッフを育成。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	100%	0%	ガイドラインの「4つの基本活動」を組み合わせて実施。	4つの基本活動の意義を、全スタッフに改めて周知。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	83%	17%	日々の活動の中で、子どもが自分で選択・決定できる工夫。	長期的な視点で自立を支援する目標設定を行う。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	児発管が会議に出席し、子どもの状況を正確に共有。	全スタッフがアセスメント等の資料を深く理解する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	学校や医療・福祉機関と連携し、支援体制を構築。	問題発生時に即時対応・解決できる体制を維持。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	学校との行事予定共有や、送迎時の連絡を適切に実施。	トラブル時に迅速かつ柔軟に対応できる体制を強化。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%	小学校等からの利用に対し、学校との情報共有を徹底。	未就学児の利用開始時も、円滑な情報連携を行う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	（現在は対象者不在）	移行時は、関係機関へ丁寧な情報提供を実施する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	83%	17%	教育センターや地域福祉ネットワーク、民間研修に参加。	外部研修や専門機関との意見交換を継続的に行う。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	地域スペースを借りたイベントや公園での活動を実施。	施設主催イベントを増やし、地域交流をさらに促進。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	33%	67%	自立支援協議会などの地域ネットワークに積極的に参加。	今後も案内に対し、積極的に参加・協力していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	連絡帳や電話、SNSを通じて保護者と密に情報共有。	現状の良好な連携体制を今後も継続していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	（これまでは保護者への働きかけが限定的だった）	今後は外部研修やセミナーの案内を積極的に行う。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時の運営規定や、個別支援計画について丁寧に説明。	支援プログラムについても、より詳細な説明を徹底。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	モニタリングを通じて保護者の意向を確認し、計画に反映。	日々の対話を大切に、常に最新の意向を把握する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	モニタリング結果を反映し、保護者の合意を得て支援計画を作成。	独自のアセスメントシートを作成し、より深い分析を行う。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	面談等を通じて随時相談に応じ、適切な家族支援を実施。	小中学校等との連携をさらに強化し、一貫した支援に努める。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	67%	33%	（現在は運営に注力している段階）	休日等を利用し、保護者同士の交流会を今後開催する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	苦情には面談等で迅速に対応する体制を整備。	各委員会の活動を活性化し、再発防止策を共有する。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	SNSや連絡ツールを活用し、活動内容や予定を積極的に発信。	従来の発信に加え、定期的なおたよりの作成も検討する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報の取扱いに細心の注意を払い、適切に管理。	鍵付き書庫での保管を徹底し、管理体制を維持する。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	連絡帳や面談を通じ、きめ細かな意思疎通を継続。	スタッフ会議を充実させ、より配慮の行き届いた連携を図る。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	地域交流のため、施設主催のイベントを実施。	地域の方向けのイベント回数を増やし、交流を深める。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	83%	17%	各種マニュアル（防災・防犯等）を整備し、訓練を実施。	作成したマニュアルの内容を、ご家族へも周知・共有する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	83%	17%	BCP（業務継続計画）を策定し、非常時の避難訓練を実施。	年間の避難訓練の回数を増やし、対応力を向上させる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%	フェイスシートにより、服薬や発作等の健康状態を正確に把握。	気になる点は即座に確認し、日々の支援に確実に反映する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	個々の食物アレルギーを把握し、提供食の選別・除去を徹底。	花粉症等のアレルギー諸症状に対しても、適切な対応に努める。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画に基づき、年2回の避難訓練やマニュアル整備を実施。	多様な災害場面を想定した、より実践的な訓練を積み重ねる。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	(周知しているが、まだ不十分なところがある。)	安全計画の内容や、緊急時連絡網について保護者へ周知する。
非常時等の対応	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハット事例はその場で即時対応し、対策を講じている。	事例の共有を徹底し、ヒヤリハットのない運営を追求する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止委員会を設置し、外部研修等へ積極的に参加。	休日等を利用し、スタッフ全員が研修を受けられる機会を設ける。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	身体拘束等の適正化指針を作成し、契約時に丁寧に説明。	(当施設では該当事例なし)引き続き適切な運営を継続する。